

世 界 史

(問 題)

2013年度

〈 H25073412 〉

注 意 事 項

1. 問題冊子および記述解答用紙は、試験開始の指示があるまで開かないこと。
2. 問題は2～9ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 解答はすべて解答用紙の所定欄にHBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
4. 受験番号および氏名は、試験が開始してから、記述解答用紙の所定欄（2か所）には受験番号と氏名を、マーク解答用紙の所定欄には氏名のみを正確にでいねいに記入すること。
受験番号は正確にでいねいに記入すること。読みづらい数字は採点処理に支障をきたすことがあるので、注意すること。

数字見本	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

5. マーク欄ははっきり記入すること。また、訂正する場合は、消しゴムででいねいに、消し残しがないようによく消すこと（砂消しゴムは使用しないこと）。

マークする時	● 良い	● 悪い	○ 悪い
マークを消す時	○ 良い	● 悪い	○ 悪い

6. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

I 中国史に関する以下のA～Dの文章を読み、設問1～9について解答を一つ選び、マーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

A 中国では『史記』以前の史書に関連する文献として『春秋』や『国語』等があったが、前漢の司馬遷によって紀伝体による歴史叙述が創始されると、以後、紀伝体による史書の撰述が行われるようになった。『史記』以後の『漢書』・『後漢書』・『三国志』等々はみな私撰であるが、唐に至り勅命によって前王朝の**正史**が編纂されるようになった。

設問1 下線aの『春秋』と最も密接に関連するものを選びなさい。

- ① 通史 ② 断代史 ③ 編年体 ④ 紀事本末体

設問2 下線bに関して、清の乾隆末年に二十四の史書を選んでこれを正史としたが、この乾隆帝の文化事業の中に含まれるものはどれか。

- ① 『古今圖書集成』 ② 『四庫全書』 ③ 『四書大全』 ④ 『大義覺迷録』

B 諸子百家の一つである陰陽家の鄒衍は、“陰陽五行説”を唱えたことで知られる。すなわち天地万物の根本を陰と陽の二元としてとらえ、森羅万象を木・火・土・金・水の五要素による働きによって推移すると考え、その五行循環に基いて、舜は土徳、夏は木徳、殷は金徳、周は火徳をもって王となったとする有名な王朝交替論を唱えた。この学説は秦漢以降に、王朝の正統性をめぐる議論に大きな影響を与えた。

設問3 下線cの諸子百家の関連事項の組み合わせの中で、誤っているものはどれか。

- ① 儒家／孝 ② 兵家／呉起 ③ 名家／白馬は馬に非ず ④ 道家／非攻

設問4 ギリシア人で古代ローマの歴史家であるポリビオスは、政体循環史観による歴史書を著したが、ギリシア時代およびローマ時代の歴史家と歴史書に関して、誤った記述はどれか。

- ① ペルシア戦争を主題とするヘロドトスの『歴史』は、物語風の歴史叙述の典型とされている。
② ペロポネソス戦争を主題とするトゥキディデスの『歴史』は、史料批判に基く歴史叙述とされている。
③ リウィウスは、建国からアウグストゥスに至るまでの『ローマ建国史』を著した。
④ 『年代記』を著したタキトゥスは、政治的に帝政の立場に立っている。

C 平和的に政権を譲り受ける王朝交替を“**禪讓**”といい、武力で奪取することを“放伐”という。それは天帝が地上の有徳者に命（地上の支配権）を託して統治させる、という天命思想に基くものである。暴政によって民意を失えば、命は他の有徳者に移り、新たな受命者が放伐によって暴君を倒し、新王朝が樹立される。これらを**易姓革命**という。

設問5 下線dに関して、中国史上、禪讓の最初の実例は、前漢にかわって新を樹立した王莽であるが、王莽の政治に関して誤っている記述はどれか。

- ① その政治は『周礼』等の儒家經典の影響が大きかった。
② 前7年に豪族の大土地所有を制限する限田法を發布した。
③ 籤緯思想（予言思想）を政治的に利用した。
④ 政治の混乱は赤眉の乱を引き起こし、これに乗じて豪族も各地で挙兵した。

設問6 下線eに関して、戦国諸子の中で易姓革命を典型的に唱えた者は誰か。

- ① 莊子 ② 孟子 ③ 韓非 ④ 蘇秦

設問7 宋代以降、君主権が強大化し、禪譲形式は廢れて、異民族による征服と漢人王朝の放伐による王朝交替が行われる。このような政権交代に関する記述で誤っているものはどれか。

- ① 契丹は後晋の建国を助けた代償に燕雲十六州を獲得し、後晋を滅ぼして華北に支配領域を拡大し、国号を遼と定めた。
- ② 金は宋と結んで遼を滅ぼしたが、宋は同盟中に金と結んだ約束を守らなかったため、開封が攻め落とされ、金に滅ぼされた。
- ③ 大都に遷都して国号を元と定めたフビライは、臨安を占領し、南宋を滅ぼした。
- ④ 李自成が明を滅ぼすと、山海関を守備していた呉三桂は清に投降し、清軍を関内に導き入れた。ヌルハチの率いる清軍は、李自成の乱を平定して北京を占拠した。

D 辛亥革命が起こると、清朝は袁世凱を内閣総理大臣に任命し、革命の鎮圧を期待した。しかし裏で袁世凱は革命派と取引し、皇帝の退位・共和制の実現と引きかえに、自らが臨時大統領に就く協定を結んだ。そのため宣統帝(溥儀)は退位をよぎなくされ、清朝の支配は終わり、同時に秦の始皇帝に始まる皇帝の支配の歴史も終わったのである。

設問8 下線fに関して、溥儀はその後、1934年に関東軍に擁立されて満州国皇帝に即くが、この同じ年に起こった歴史的出来事は何か。

- ① 中国共産党の長征
- ② 西安事件
- ③ 第二次国共合作
- ④ 柳条湖事件

設問9 清朝の宮城を紫禁城というが、最初にこれを築城した皇帝は誰か。

- ① 洪武帝
- ② 永楽帝
- ③ 順治帝
- ④ 康熙帝

II 次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。解答はマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

イベリア半島は、ヨーロッパ大陸南西端に位置し、古くからヨーロッパとアフリカを結ぶ要衝の地であった。旧石器時代や現生人類の遺跡が残されているが、多くの民族が侵入し、さまざまな文明や文化の交錯する場であった。まず紀元前1000年ころには、北からケルト人が侵入して、先住のイベリア人と混交した。その後、フェニキア人やギリシア人などの地中海諸民族が侵入し、紀元前3世紀末にはローマとカルタゴとの抗争が展開された。前2世紀には、半島はローマの支配下に入り、属州ヒスパニアとして、ローマ文化が浸透した。紀元後のローマ帝政期には、このヒスパニア出身の **A** が、初の属州出身の皇帝となり、五賢帝の一人としてローマ帝国の領土拡大に努めた。さらに、紀元後3・4世紀には、キリスト教がこの地にも深く根づき、キリスト教文化が形成された。

5世紀になると、ゲルマン民族がピレネー山脈を越えてあいついで侵入した。まず、ヴァンダル族が、この地を経て、北アフリカに建国した。西ゴート族は、ローマを略奪したあと、ガリア南西部を経て、この地に西ゴート王国を建国した。しかし、8世紀には、アフリカからイスラーム教徒が進出し、711年に西ゴート王国を滅亡させた。次いで、イスラーム勢力は、ピレネーを越えてフランク王国内に侵入したが、カール=マルテルによって、732年のトゥール・ポワティエ間の戦いで撃退され、その後もピレネーを挟んだ対立が続いた。756年にはイベリア半島に新しいイスラーム王朝が建国され、半島全域がイスラームの支配下に入り、イスラーム文化が栄えた。

しかし、一方で、半島北部に残されたキリスト教徒を中心に国土回復運動(レコンキスタ)が行われ、12世紀までには、半島の北半分がキリスト教圏となり、回復された領土にカスティリヤ・アラゴン・**B** の3王国があらたに建国された。13世紀にはイスラーム勢力は南部にグラナダ王国を残すだけとなり、カスティリヤ・アラゴン両国が中心となって、国土の回復を一層すすめた。15世紀末に両国は統合され、スペイン王国が形成された。1492年、イスラーム勢力最後の拠点であったグラナダが陥落し、国土統一が達成された。イスラーム教徒と戦ってきたスペイン王国では、キリスト教を海外に布教しようとする意欲も強く、国王の保護の下で、積極的に、新航路の発見を目指して、イベリア半島から海外進出に乗り出していった。

設問1 下線部①に関連して、次の1～4の説明の中から、ヨーロッパの現生人類（新人）やその遺跡について述べたものとして、あてはまらないものを一つ選びなさい。

- 1 ドイツで発見されたネアンデルタール人は、埋葬の風習をもっていたと言われる。
- 2 スペインのアルタミラの遺跡は、野牛などの洞窟絵画で知られる。
- 3 フランスで発見されたクロマニヨン人は、南西ヨーロッパに広く分布した。
- 4 フランスのラスコーの遺跡は、20世紀前半に発見された洞窟絵画遺跡である。

設問2 下線部②に関連して、ローマとカルタゴの抗争について述べた次のa～dの事項が古いものから時代順に並んでいるものを次の1～4の中から一つ選びなさい。

- a ハンニバルはアルプスを越えて北イタリアに侵入し、ローマ軍に大打撃を与えた。
- b 小スピキオがカルタゴと戦った。
- c ローマはシチリアを獲得して最初の属州とした。
- d ローマ軍はザマの戦いでカルタゴ軍に圧勝した。

- 1 a → c → b → d
- 2 c → b → d → a
- 3 d → c → a → b
- 4 c → a → d → b

設問3 下線部③に関連して、ゲルマン民族について述べた次の1～4の説明の中から誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 フランク王国を建国したメロヴィング家のクローヴィスは、アタナシウス派のキリスト教に改宗した。
- 2 451年のカタラヌムの戦いで、西ローマ・フランクの連合軍がアッティラのフン軍に敗れた。
- 3 ゲルマン人の傭兵隊長オドアケルが西ローマ帝国を滅亡させたが、のちに東ゴートに敗れた。
- 4 東ゴート王国は、東ローマ帝国のユスティニアヌスによって滅ぼされた。

設問4 下線部④に関連して、イベリア半島のイスラーム王朝とその文化について述べた次の1～4の説明の中から誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 アッバース朝に対抗して、イベリア半島に後ウマイヤ朝が建国された。
- 2 アブド＝アッラフマーン3世は、文芸を奨励し、またカリフの称号を使用した。
- 3 イベリア半島最後のイスラーム王朝であるナスル朝の時代に、コルドバにアルハンブラ宮殿が建てられた。
- 4 イスラーム文化は、幾何学模様のアラベスクや精密な絵画ミニアチュールに特色がある。

設問5 下線部⑤に関連して、スペイン王国の歴史について述べた次の1～4の説明の中から誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 アラゴン王フェルナンド2世とカスティリャ女王イサベルとの婚姻により両国が合併し、スペイン王国が1479年に誕生した。
- 2 スペイン＝ハプスブルク家のカルロス1世は、1519年にカール5世として神聖ローマ皇帝にも選出された。
- 3 スペイン皇太子フェリペは、16世紀半ばに熱烈なカトリックのイギリス女王メアリ1世と結婚した。
- 4 フェリペ5世が、17世紀前半にスペイン＝ブルボン王朝の祖となった。

設問6 下線部⑥に関連して、スペインの新航路の発見や海外進出について述べた次の1～4の説明の中から正しいものを一つ選びなさい。

- 1 ヴェネツィア生まれのコロンブスがスペインの援助を受け、大西洋を西に向かって、「インド」と呼ばれる地域を目指した。
- 2 スペインとポルトガルが協議して植民地分界線（教皇子午線）を設定し、これにより、現在のブラジルはポルトガル領になった。
- 3 スペイン王室の命令で、イタリア人マゼランが西回りの大航海に出発し、フィリピンに達した。
- 4 スペインのコルテスはアステカ王国を破ってメキシコを征服し、同じくピサロはインカ帝国を滅ぼした。

設問7 **A**に入る最も適切な語を次の1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 マルクス＝アウレリウス＝アントニヌス
- 2 ハドリアヌス
- 3 アントニヌス＝ピウス
- 4 トラヤヌス

設問8 **B**に入る最も適切な語を次の1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 バルセロナ
- 2 ポルトガル
- 3 バレンシア
- 4 セビリヤ

Ⅲ 次の文章を読み、以下の設問に答えなさい。解答はマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

18世紀のムガル帝国は、アウラングゼーブの統治下で繁栄の時代の最後を告げ、ベンガル太守などイスラーム諸侯が独立し、マラーター王国をはじめとした勢力が帝国を脅かすなど、衰退の一途をたどっていた。他方、17世紀末までにインド洋西海域やベンガル湾へと経済活動を拡大したポルトガル、フランス、イギリスなどは交易都市を占領し、ヨーロッパの経済勢力はますますインド亜大陸への関心を高めていた。とくにイギリスは、1757年のプラッシーの戦いでフランスと手を組んだベンガル地方の太守に勝利すると、東インドの領域を手中に収め、ムガル帝国の弱体化を追い風に各地の諸王国を服従させ、19世紀半ばまでにインド全域を支配下に入れた。

植民地統治と植民地経済の利益を優先するため、インドにおける既存の勢力や社会構造に打撃を与えたイギリスに対して、旧支配層や農民、商人、手工業者たちは不満や反感を募らせていった。1857年に北インドでシパーヒーが反乱を起こすと、各地で幅広い社会層の人々が立ち上がり、大反乱へと発展した。しかし、地方の分裂が激しい状況において、反英の動きはまとまることができず、結局、イギリス軍に鎮圧された。ムガル帝国は3世紀にわたる長い歴史を閉じ、1877年、ヴィクトリア女王を皇帝とするインド帝国が成立することで、イギリスの植民地支配が完成した。

インド帝国は1947年までの70年間続くことになるが、その間、イギリス支配による「インドの近代化」と、インド人によるイギリス支配への抵抗運動という過程の中で、宗教問題やカースト差別は複雑な様相を呈した。歴史的にとらえると、ヒन्दゥー教徒とイスラーム教徒は常に対立関係にあったわけではなく、イギリスの植民地統治が両者の関係を翻弄したといえるであろう。結果として1947年のイギリス支配からの解放は、ヒन्दゥー教徒を主体とするインドとイスラーム教のパキスタンが二つの国家として分離独立するという形で遂げることとなった。

設問1 下線①について、以下の記述のうち、明白に誤っているものを一つ選びなさい。

- A それまでのヒन्दゥー教徒への融和政策をやめ、イスラーム教徒を重用した。
- I 厳格なスンナ派イスラーム教徒の立場から、ジズヤを復活させた。
- U 南方に覇権を拡大するため、帝国の都をアグラからデリーに移した。
- E 17世紀半ばからほぼ半世紀続く治世において、帝国の領土を最大とした。

設問2 下線②について、18世紀から19世紀前半にかけてムガル帝国を脅かした勢力に関する以下の記述のうち、明白に誤っているものを一つ選びなさい。

- ア シヴァージーによって建設されたマラーター王国はヒンドゥー教国であった。
- イ カースト差別と偶像崇拜を否定し、唯一神を信仰したナーナクは、シク教徒を率いて独立王国を建てた。
- ウ 南インドのマイソール王国は、一時、イスラーム勢力に圧迫された。
- エ ムガル帝国を脅かしたマラーター王国、シク王国、マイソール王国は、のちにイギリスとの戦争に敗れた。

設問3 下線③について、16世紀からヨーロッパの経済勢力が占領していた都市を一つ選びなさい。

- ア マドラス イ シャンデルナゴル ウ ポンディシェリ エ ゴア

設問4 下線④について、イギリスがインドで展開した植民地経済に関する以下の記述のうち、明白に誤っているものを一つ選びなさい。

- ア イギリス東インド会社は、すでに国際商品として生産され、西欧へと輸出されていたインド綿布に関心を示した。
- イ インドの貿易独占権を有した東インド会社は1784年のインド法により解散し、イギリス産業資本家による自由貿易が可能となった。
- ウ イギリス本国での産業革命により安価な機械織り綿布が大量に生産され、インドは綿布の輸入市場へと立場の転換を強いられた。
- エ 19世紀に入ると、インドは綿のほか、アヘンやインディゴ、茶などの原料生産地としても重要な位置を占めるようになった。

設問5 下線⑤について、この帝国に関する以下の記述のうち、明白に誤っているものを一つ選びなさい。

- ア ティムールの子孫のバブルによって、モンゴルという意味をもつムガル朝が建てられた。
- イ イスラーム教がインド全域に広まり、ヒンドゥー文化からの影響も受けてインド＝イスラーム文化が発達した。
- ウ 公用語をウルドゥー語とし、第三代アクバルのもとで中央集権制度が確立した。
- エ 1858年、イギリスがムガル皇帝を廃することで、この帝国は滅亡にいたった。

設問6 下線⑥について、以下の記述のうち、明白に誤っているものを一つ選びなさい。

- ア イギリスは、インド人が団結して大規模な反英勢力を形成しないよう、一部の王国を藩王国として存続させ、地方内政を分断した。
- イ 反英運動の中心であったインド東部のパンジャブ州では、イスラーム教徒の州とヒンドゥー教徒の州に分割する法令が出され、民族運動の抑止が図られた。
- ウ 急進派ティラクが率いた国民会議派は、ボイコット、スワデーシ、スワラージ、民族教育の綱領を打ち立てた。
- エ 第二次世界大戦において、インド国民会議派は戦争に非協力の立場をとり、独立を要求し続けた。

設問7 下線⑦について、以下の記述のうち、明白に誤っているものを一つ選びなさい。

- ア 国民会議派はヒンドゥー教徒が中心であり、イスラーム教徒はこれに対抗する形で1885年に全インド＝ムスリム連盟を組織した。
- イ イギリスで高等教育を受けたガンディーは、ヒンドゥー教徒とイスラーム教徒の融和に努め、非暴力不服従運動を展開した。
- ウ 第一次世界大戦でイギリスがカリフの国オスマン帝国と戦うと、全インド＝ムスリム連盟は反英的となり、国民会議派と提携した。
- エ 全インド＝ムスリム連盟を率いたジンナーは、ヒンドゥー教徒と対立し、イギリスに協力する姿勢を示した。

設問8 下線⑧について、以下の記述のうち、明白に誤っているものを一つ選びなさい。

- ア 1940年、全インド＝ムスリム連盟はラホール大会でパキスタンの建設を決議した。
- イ 1971年、東パキスタンはカシミールの帰属をめぐる戦争でインドに勝利し、バングラデシュとして分離独立した。
- ウ 1988年、ベナズィール＝ブットーがイスラーム諸国で初の女性首相に就任した。
- エ 1998年、パキスタンはインドの核実験に対抗して原爆の実験に成功し、核保有国となった。

IV 次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。解答はマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

19世紀末から20世紀初めのヨーロッパは、主要国であるイギリス、フランス、ドイツで国民国家が成立し、繁栄をきわめつつも同時に矛盾が露呈してくる時代であった。まず、発展した資本主義経済の市場として古くから広大な植民地を所有していた国と、後発資本主義国との間で、植民地争奪戦が引き起されたことである。次いで、国家が民族を主体として構成されていたこの時代においては、民族意識の高揚は、国家間の対立につながるものでもあった。さらに資本主義経済が発達するにつれ、各国の内部で社会的矛盾が露わになり、労働運動もさかに行なわれた。

バルカン半島でのパン＝スラヴ主義とパン＝ゲルマン主義の民族感情の衝突をきっかけとして、1914年7月に始まった戦争は、短期間で終わるとの予想に反して、ヨーロッパ全域と極東地域まで巻き込んで第一次世界大戦となり、4年にわたって続いて、諸国に甚大な被害をもたらした。この被害は、一方では、近代科学の発達が機関銃、戦車、毒ガスなど各種の大量破壊兵器を作りだしたことによる。他方では、消耗戦に應じるために国家・社会・国民の全体が戦争遂行に向かって組織される総力戦の様態が現れたことによる。

東部戦線では、ロシアで食料不足などにより生活が窮乏したのに抗議して、ペトログラードで1917年3月、大規模なストライキが起り、ニコライ2世が退位してロマノフ王朝は滅亡した。成立した臨時政府は戦争継続政策を採ったが、これに反対する勢力が再度革命を起し、11月にソヴィエト政権を樹立した。この政権はその後、内部対立や各国の干渉に苦しんだ。同じ年、西部戦線では、ドイツの無制限潜水艦作戦によって自国民に多数の死者を出していたアメリカが、中立政策を放棄し、4月に参戦した。これによって連合国側に兵力と資金が潤沢に供給され、戦局は連合国側に大きく傾くことになった。

1918年になると、全体に先んじて3月に、ソヴィエト・ロシアとドイツの間で講和条約が結ばれ、東部での戦闘が収束した。西部ではなお戦闘が続いたが、ドイツでは、兵士の反乱が起こるなどでヴィルヘルム2世が退位して共和国が誕生し、同年11月、連合国側との間で休戦協定が結ばれた。翌年1月にはパリで戦後処理のための講和会議が開かれ、また他の諸国間でも講和条約が結ばれたが、ヨーロッパ内の対立はその後も長引いた。

設問1 下線部①に関連して、植民地をめぐる争いについて述べている次の文章のうち、明白に誤っているものを一つ選びなさい。

- イ イギリスは、カイロからケープタウンまでを結ぶことでアフリカを支配しようとした。この計画はインド洋を介してカルカッタとも結ばれ、世界政策の基本となり、3C政策と呼ばれた。
- ロ ドイツは、国内統一が遅れたせいで海外進出も遅れたが、イギリス・フランスの支配地域に割り込もうとし、アフリカではフランスのアルジェリア支配に対抗し、二度にわたって武力衝突を引き起こした。
- ハ フランスは、サハラ砂漠を越えて西アフリカに勢力を伸ばし、さらに東に向かってイギリスと対立したが、ドイツと対抗するために協調政策に転じた。
- ニ 列強の侵略に対して、スーダンではマフディと呼ばれる指導者による反乱が起こるなど、現地住民の抵抗運動がいくつか起こったが、いずれも敗北した。

設問2 下線部②に関連して、民族意識や国民意識の高揚について述べている次の文章のうち、明白に誤っているものを一つ選びなさい。

- イ フランスでは、普法戦争敗北後、ドイツへの復讐熱が高まって、強硬策を訴えるブーランジェ將軍に人気が集まった。
- ロ ロシアでは、第一次ロシア革命の後、欽定憲法が公布され、首相の座に就いたケレンスキーは、パン=スラヴ主義を支援した。
- ハ ドレフス事件を通じてユダヤ人差別が露わになったことで、ユダヤ人固有の民族国家を建てようとするシオニズム運動が起こった。
- ニ ドイツでは帝国主義的膨張政策に応じて、市民の間にドイツ人の勢力を拡大しようとするパン=ゲルマン主義が強まった。

設問3 下線部③に関連して、明白に誤っているものを一つ選びなさい。

- イ イギリスでは、フェビアン協会や労働組合の運動を通して、1906年労働党が結成され、穏やかな改革を目指した。
- ロ ドイツでは、社会主義者鎮圧法の廃止後、社会民主党が議会での勢力拡大を目指す方針をとり、1912年には議会第一党となった。
- ハ フランスの労働運動は、サンディカリズムが主流であったが、1905年に成立した急進社会党に主導されることになった。
- ニ 各国の労働者組織はゼネストで戦争に反対することを計画したが、開戦するとそれぞれの国の戦争遂行政策に協力した。

設問4 下線部④に関連して、第一次世界大戦の戦いでないものを一つ選びなさい。

- イ マルヌの戦い ロ ソンムの戦い ハ タンネンベルクの戦い ニ スダン（セダン）の戦い

設問5 下線部⑤に関連して、明白に誤っているものを一つ選びなさい。

- イ イギリスのチャーチル内閣、フランスのクレマンソー内閣、ドイツの軍部独裁など挙国一致体制が成立した。
- ロ あらゆる階層と職業の人間が動員され、女性や青少年も軍需工場などに動員された。
- ハ イギリスとフランスでは、植民地から現地住民が兵士として戦場に送り込まれた。
- ニ 総力戦を支えた民衆階級が政治的発言権を求め、戦後、イギリスやアメリカで選挙法の改正が進んだ。

設問6 下線部⑥に関連して、明白に誤っているものを一つ選びなさい。

- イ 労働者と兵士が結合して戦力を取り戻したロシアは、ドイツ軍を押し戻し、ポーランドに対する権益を回復して講和を結んだ。
- ロ 連合国は社会主義政権打倒のため反革命軍を支援し、イギリス軍、日本軍などがロシア領内に侵入した。
- ハ ロシア共産党の主導下にコミンテルンが結成されたが、社会主義革命はヨーロッパにはひろがらなかった。
- ニ 物資不足に対処するために、穀物徴発を含む戦時共産主義が導入されたが、農民は生産意欲を失い、社会は混迷した。

設問7 下線部⑦の講和条約の名前として、正しいものを一つ選びなさい。

- イ サン＝ジェルマン条約
- ロ ラパロ条約
- ハ セーヴル条約
- ニ プレスト＝リトフスク条約

設問8 下線部⑧に関連して、正しいものを一つ選びなさい。

- イ キール軍港蜂起
- ロ 血の日曜日
- ハ スパルタクス蜂起
- ニ イースター蜂起

設問9 下線部⑨に関連して、明白に誤っているものを一つ選びなさい。

- イ フランスとベルギーは、賠償金の支払いが遅れたことに不満で、ドイツの重要な工業地帯であるルール地方に軍を進駐させた。
- ロ オーストリア＝ハンガリー帝国が解体して多くの国家が生まれたが、内部の民族対立や大土地所有制度を克服できず、ハンガリーのピウスツキなど独裁政権が生まれた。
- ハ 領土問題は安定せず、たとえばイタリアは、フィウメの領有をユーゴと争い、ナショナリストの一派は独断でこの地方を占拠した。
- ニ 敗戦国となったオスマン帝国は、解体の危機に瀕したが、ムスタファ＝ケマルによってスルタン制度が廃止され、共和国が樹立された。

V 19世紀末から国際連盟が発足した1920年までの間に、欧米列強に戦争の回避や国際紛争の解決を目的としたさまざまな立場からの動きがみられる。そのような当時における代表的な動きとその内容について、次の語句を用いて、200字以上250字以内で記述しなさい。なお、句読点、数字は1字に数え、所定の語句には必ず下線を付しなさい。

十四カ条の平和原則

万国平和会議

秘密外交

ヴェルサイユ条約

[以下余白]





